

日本顎口腔機能学会 第56回学術大会 報告

明海大学歯学部 機能保存回復学講座 歯科補綴学分野

大会長 藤澤 政紀

準備委員長 渡邊 明

日本顎口腔機能学会 第56回学術大会は明海大学歯学部 機能保存回復学講座 歯科補綴学分野 教授 藤澤政紀を大会長として、平成28年4月23日、4月24日の2日間、埼玉県川越市の東洋大学川越キャンパス7号館にて開催されました。大会には特別講師1名、一般68名、大学院生・研修医52名、計121名、懇親会には来賓4名、特別講師1名、一般41名、大学院生・研修医32名、計78名が参加し、明海大学歯学部 形態機能生育学講座 生理学分野 村本和世教授による特別講演と、第54回学術大会優秀賞受賞者によるシンポジウム（学術企画）が開催され、13題の一般口演とともにいずれのセッションにおいても活発な議論が行われました。

初日は大会長の挨拶で始まり、セッションⅠでは東北大学助教の田中恭恵先生を座長として、昭和大学の望月文子先生が「シタロプラムはノンレム睡眠時の咬筋活動を変調させる」、東洋大学の野原倫久先生が「末梢神経麻痺における重心動揺の噛み締め制御」について発表されました。セッションⅡでは明海大学助教の佐藤雅介先生を座長として、明海大学の奥津史子先生が「下顎遊離端欠損症例における部分床義歯の設計が咀嚼機能に及ぼす影響-リンガルエプロンとリンガルバーとの比較-」、新潟大学の昆はるか先生が「頸部屈曲が咀嚼運動に与える影響」について発表されました。

初日午後の部はセッションⅢから始まり、岩手大学助教の佐々木誠先生を座長として、長崎大学の森内絵美先生が「モーションキャプチャーを用いた小動物6自由度顎運動解析システムの開発」、松本歯科大学の祁君容先生が「外耳道ひずみの記録による簡易顎関節診断の可能性」、岩手大学の渡辺達也先生が「口腔内振動刺激の知覚特性に関する基礎検討」について発表されました。

一般口演Ⅰ～Ⅲセッションの後に開催された特別講演は、明海大学歯学部形態機能生育学講座生理学分野教授の村本和世先生をお招きし、「味とにおいの奏でる食のハーモニー：



味わいの脳科学」の演題で、藤澤政紀大会長を座長として行われました。村本和世先生は人間が生活を営んでいるうえで必要な楽しみの一つである味覚・嗅覚について、その関係性や複雑さを科学的に分析した結果などをお示しになりながら御講演いただき、参加者はその内容に引き込まれておりました。村本教授は懇親会でも最後まで多くの参加者に

囲まれて討論を交わしておられました。



特別講演後には「顎口腔機能の低下予防に関する多分野アプローチによる挑戦」と題したシンポジウム（学術企画）が開催され、明海大学助教の渡邊明を座長とし、第54回学術大会大会優秀賞受賞者である、明海大学大塚英稔先生、岡山大学萬田陽介先生、新潟大学酒井翔悟先生がそれぞれの専門分野から顎口腔機能の低下に対する今後のアプローチ、特別講演と共通する題目であり、多くの先生方がディスカッションに参加され有意義なシンポジウムになりました。

シンポジウム終了後には東洋大学学生食堂棟『カフェテリア』に場所を移動して懇親会が行われました。懇親会冒頭で日本顎口腔機能学会副会長山口泰彦先生から第54回学術大会最優秀賞の明海大学齊藤小夏先生にサインボードが、また優秀賞の新潟大学神田知佳先生と大阪大学辻阪亮子先生に表彰盾がそれぞれ手渡されました。その後、サインボードが置かれたテーブルが Young Cabinet Table になり、受賞者や若手の先生方が集いディスカッションを展開しました。



学術大会2日目のセッションⅣは日本大学松戸歯学部助教の飯田崇先生を座長として、徳島大学の松香芳三先生が「知覚神経節における神経伝達物質による痛み情報伝達の可能性」、日本大学松戸の本田実加先生が「健常者における舌神経ブロックおよびカプサイシン舌尖塗布が知覚の歪みに及ぼす影響」、徳島大学の上枝麻友先生が「炎症環境による歯髄細胞の幹細胞化-歯髄細胞分化に与える TNF- α の影響-」について発表されました。

大会最後のセッションⅤでは東洋大学助教の窪田佳寛先生を座長として、北海道大学の吉沢早織先生が「口唇閉鎖不全者に対する口輪筋筋力トレーニングの有効性」、松本歯科大学の竹花快恵先生が「口すぼめ運動の方向別難易度-口唇トレーニングシステムの開発に向けて-」、岩手大学の佐々木将瑛先生が「舌骨上筋群の表面金電位を用いた舌尖の力ベクトル推定」について発表されました。

演者の相互評価による優秀賞は岩手大学の渡辺達也先生が栄えある最優秀賞となりサイ

ンボードホルダーになりました。長崎大学の森内絵美先生と松本歯科大学の竹花快恵先生も優秀賞に輝きました。閉会の辞では、次期主管校の東北大学田中恭恵先生から次期会場の東北大学医学部開設百周年記念ホール-星陵オーデトリウム-や仙台の紹介も交えたご挨拶を頂きました。

最後になりましたが、学術大会主管を務めさせて頂くにあたり、アクセスが不便な明海大学坂戸キャンパスを避け、東武東上線沿線の東洋大学川越キャンパス7号館をお借りし、開催させていただきました。東洋大学理工学部教授寺田信幸先生をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。また、この度の学術大会の開催にあたり、ご協力頂きましたすべての皆様に心からの感謝の意を表しますとともに、本学会の益々のご発展を祈念申し上げます。

